

## 図書館員のひみつの本棚 第136回

今回は皆さんがよくご存じの、でも実は知らない物語です。

### 『バンビ 森の、ある一生の物語』

フェーリクス・ザルテン／著 上田 真而子／訳 岩波少年文庫 2010年  
760円

#### <お勧め年齢>

- ・乳幼児——
- ・低学年——
- ・中学年——
- ・高学年☆☆
- ・中学生☆☆☆
- ・高校☆☆☆
- ・一般☆☆☆

(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

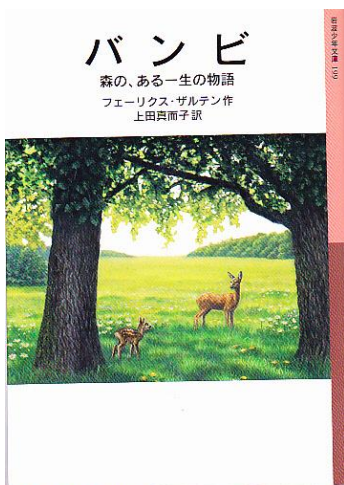
#### <本の紹介>

一匹の雄鹿バンビが、森で生まれ立派な大人の鹿になるまでの物語。母鹿の死や、雌鹿ファリーネとの出会いと恋、森へやってくる人間への恐怖などを体験し、成長していくバンビの姿を通して、すべての生き物に共通する「生」を描く。ときおり現れるバンビの父親「古老」の「人間を含むすべての生き物は同じである」「一人であることが生きる意味を知るために重要である」というメッセージは、バンビだけでなく読者の心の奥深くにも響いてくる。

#### <子どもに手渡す時のポイント>

ディズニーの「バンビ」はこの作品の翻案ですが、こちらはかなり骨太な内容で高学年以上が対象となります。大きな事件が次から次に起こるといような展開ではありませんが、読んでいるうちに惹き込まれていく物語です。一度読むと、大人になってもきっと何度となくページをめくることになるでしょう。機会を見つけて子どもたちに紹介してもらえたらと思います。

長らく高橋健二訳で岩波少年文庫から出ていましたが、2010年に今回ご紹介した新訳が出ています。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

総合図書館 重村さやか